

平成24年度 学術情報リテラシー教育担当者研修  
大阪会場(10/25)



# プレゼンテーション の実際

—事例紹介と課題について—

名古屋工業大学附属図書館

学術情報課 情報サービス係

伊原 尚子



# 本日の内容

1. 名古屋工業大学の概要
2. リテラシー教育の現状
3. 今後の課題
4. 模擬授業（メディア系演習Ⅲ（3年生））



# 1. 名古屋工業大学の概要

## 国立大学法人名古屋工業大学

**工学部 7学科 学生数: 4, 236名**

- ・生命・物質工学科
- ・環境材料工学科
- ・機械工学科
- ・電気電子工学科
- ・情報工学科
- ・建築・デザイン工学科
- ・都市社会工学科

**工学研究科 7専攻 学生数: 1, 541名**

- ・物質工学専攻
- ・機能工学専攻
- ・情報工学専攻
- ・社会工学専攻
- ・産業戦略工学専攻
- ・未来材料創成工学専攻
- ・創成シミュレーション工学専攻



# 1. 名古屋工業大学の概要

## 附属図書館

蔵書数	466, 030冊
入館者数	257, 481人
貸出冊数	39, 273冊
開館時間	8:45-21:45(通常) 8:45-16:45(休講日)
スタッフ数	常勤 8名 非常勤 8名

(うち常勤3名は事務情報業務と兼務)



## 2. リテラシー教育の現状

平成24年度 図書館主催で実施したリテラシー企画

説明会	日程	対象	時間	目的	回/人数
図書館ツアー	4月初旬	新入生	20分	新入生に、名古屋工業大学附属図書館に対して、親しみをもってもらう。	68回 162人
図書館 オリエンテーション	4月中旬	新入生	60分	新入生に、名古屋工業大学附属図書館の利用方法を説明する。	2回 3人
文献収集 ガイダンス	5月 10月	4年生以上	70分	研究活動を開始する学生に、論文の探し方および入手方法について説明する。	6回 216人
データベース 利用説明会	6月	4年生以上	90分	文献収集ガイダンスを受講済みの者に、各データベースについて詳細を説明する。 ・Scopus                    ・EBSCOhost ・Jdream II                ・SciFinder	5回 54人



## 2. リテラシー教育の現状

平成24年度 授業内で実施したリテラシー企画

名称	時期	授業名	時間	対象	開始年度
図書館利用法	4月	情報技術I EE	30分	電気電子工学科 1年生(150名)	平成24年
図書館利用法	4月	情報技術I AD	90分	建築・デザイン工学科 1年生(80名)	平成23年
図書館利用法	4月	情報技術I CM	45分	都市社会工学科 1年生(90名)	平成23年
電子ジャーナルについて	6月	総合英語(A先生担当)	20分	全学科 2年生(40名×2クラス)	平成24年
電子ジャーナルについて	7月	総合英語(B先生担当)	20分	全学科 2年生(30名・20名)	平成24年
文献調査法	6-7月	経営システム工学実習1	180分	都市社会工学科 経営システム系プログラム4年生(30名)	平成24年
文献調査法	10月	メディア系演習III	90分	情報工学科 メディア系プログラム3年生(60名)	平成18年
文献調査法	10月	専門実験	90分	電気電子工学科3年生(150名)	平成23年
文献調査法	10月	生体材料プレゼンテーション	40分	生命・物質工学科 生体材料系プログラム3年生(60名)	平成24年
文献調査法	10月	経営システム工学総合演習	180分	都市社会工学科 経営システム系プログラム3年生(50名)	平成23年



## 2. リテラシー教育の現状

授業内リテラシーを実施するまで

- |         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 平成18年   | 図書館長の所属学科である<br>情報工学科で実施           |
| 平成22年度末 | 教務学生委員会にて周知・提案<br>(リテラシーの内容など)     |
| 平成23年度末 | 教務学生委員会にて周知・提案<br>(平成23年実施実績報告・内容) |



## 2. リテラシー教育の現状

- 2.4教育・研究支援
- 2.4-1:【伊原・〇〇】授業との連携:積極的に情報収集し、授業内容を把握する。授業に関して教員への情報提供。授業内での図書館講習会を実施し、実績を積むことで、大学全体への浸透を図る。(上半期・下半期)
- 2.4-2:【伊原】学内教員との連携を強化し、教育支援への能動的な参画をする。(FD・SD研究会への参加等)(下半期)

「平成24年度 学術情報課 業務課題・目標」

より抜粋





## 2. リテラシー教育の現状

授業内リテラシーを実施するまで

### 1. 担当教員との打合せ

- ・シラバスの内容確認(習熟目標)
- ・授業の内容、様子の確認
- ・人数、教室
- ・内容について (既存の資料を基にして)
- ・教員の感じている学生の傾向について  
(ネットへの依存度、著作権への意識など)



## 2. リテラシー教育の現状

授業内リテラシーを実施するまで

### 2. 資料・実習課題の作成・準備

- ・学科特性沿ったキーワード・紹介するDBの選定
- ・デモンストレーション、実習内容の確認
- ・実習用IDの準備（利用制限のあるDBを使う場合）
- ・緊急事態に備えて

\* 一斉検索を行う場合、負荷でシステムダウンなどにならないか確認

- ・作成資料について担当教員からの意見徴収



## 2. リテラシー教育の現状

授業内リテラシーを実施するまで

### 3. プレゼンテーション練習

- ・会場の確認(マイク・照明・プロジェクタ・LAN)
- ・時間配分の設定  
(割愛する箇所・時間を延ばす箇所)
- ・実際に声を出す



## 2. リテラシー教育の現状

授業内リテラシーを実施するまで

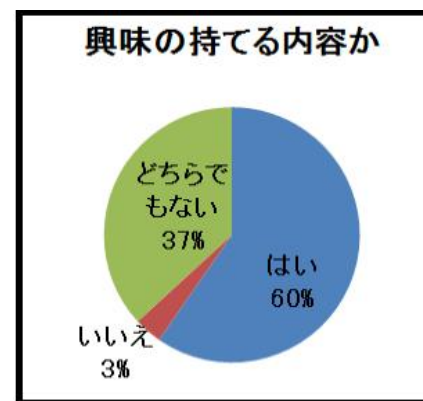
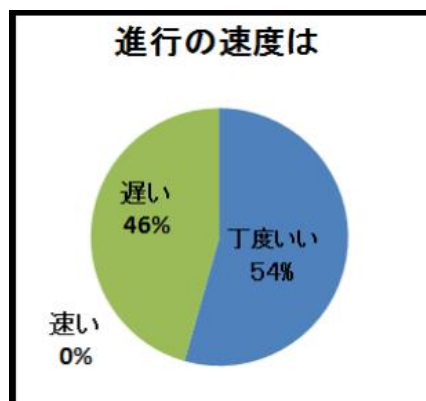
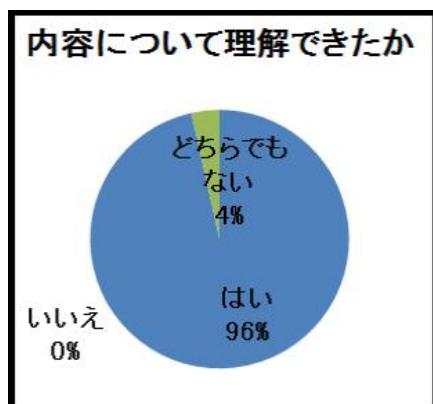
### 4. 評価

- ・学生の意見
- ・担当教員の意見
- ・補助者の意見



## 2. リテラシー教育の現状

- ・図書館からの検索方法が多く有ることが分かったので活用したい。
- ・論文を調べられることを知らなかったため、役に立った。
- ・家では論文が見られなかったサイトが学校で見れるというのは驚いた。
- ・資料がわかりやすかったので、正直資料だけあれば調査はできる気がした。
- ・途中で課題をやらせることは理解しやすいのでよかった。
- ・1つ1つ説明するよりもある程度課題等を自由にやらせて分かり難い所を説明する形にした方が良かった。
- ・課題と資料を一緒に綴じて欲しくない。
- ・検索した文献の中から最も良い文献を選ぶ方法が知りたい。
- ・考えを引用した文献は参照元を明記しないといけないことを初めて知った。





### 3. 今後の課題

- 顔の見える図書館・図書館職員
- 目標の設定(品質管理)
- 広報
- ニッチな需要に応える
- 教える側の質・量
- 全員に発信(特に初年次)
- 教員にむけての思い



## 4. 模擬授業（メディア系演習Ⅲ）

### 情報工学科メディア系プログラム 3年 後期

#### [授業の目的]

メディア系プログラムの専門科目やメディア系演習Ⅰ,Ⅱをベースに、より長期間に渡って1つのテーマについて調査や演習を行うことによって、研究の企画、調査、実施、ディスカッション、プレゼンテーション、まとめなどを総合的に学習する。なお、本演習では英語専門教育を導入する。

#### [達成目標]

調査、解析、プログラミング、ディスカッション、プレゼンテーション、まとめなどを英語を通して行うことができる。

平成24年10月5日(金) 14:40-16:10(90分) 実施



## 4. 模擬授業（メディア系演習Ⅲ）

### 事前打ち合わせでの教員からの要望

- ・図書館内の紙媒体の資料をブラウズするように勧めてほしい。
- ・文献入手のためのフローチャートを作成してほしい。
- ・WEB情報を鵜呑みにしない、信頼できる情報を見分けるコツを話してほしい。
- ・学内環境でできること、自宅でできることについて説明してほしい。